

文科省の政策立案現場から考える URAとのネットワークの必要性

齊藤 卓也

徳島大学 副学長
(前 文部科学省 基礎研究推進室長)

科学技術政策における「政策のための科学」の意義と目的

- 経済・社会の変化に適切に対応し、社会的問題を解決するための科学技術イノベーションへの期待の高まり。



経済・社会等の状況、社会における課題、その解決に必要な科学技術の現状と可能性等を多面的な視点から把握・分析。

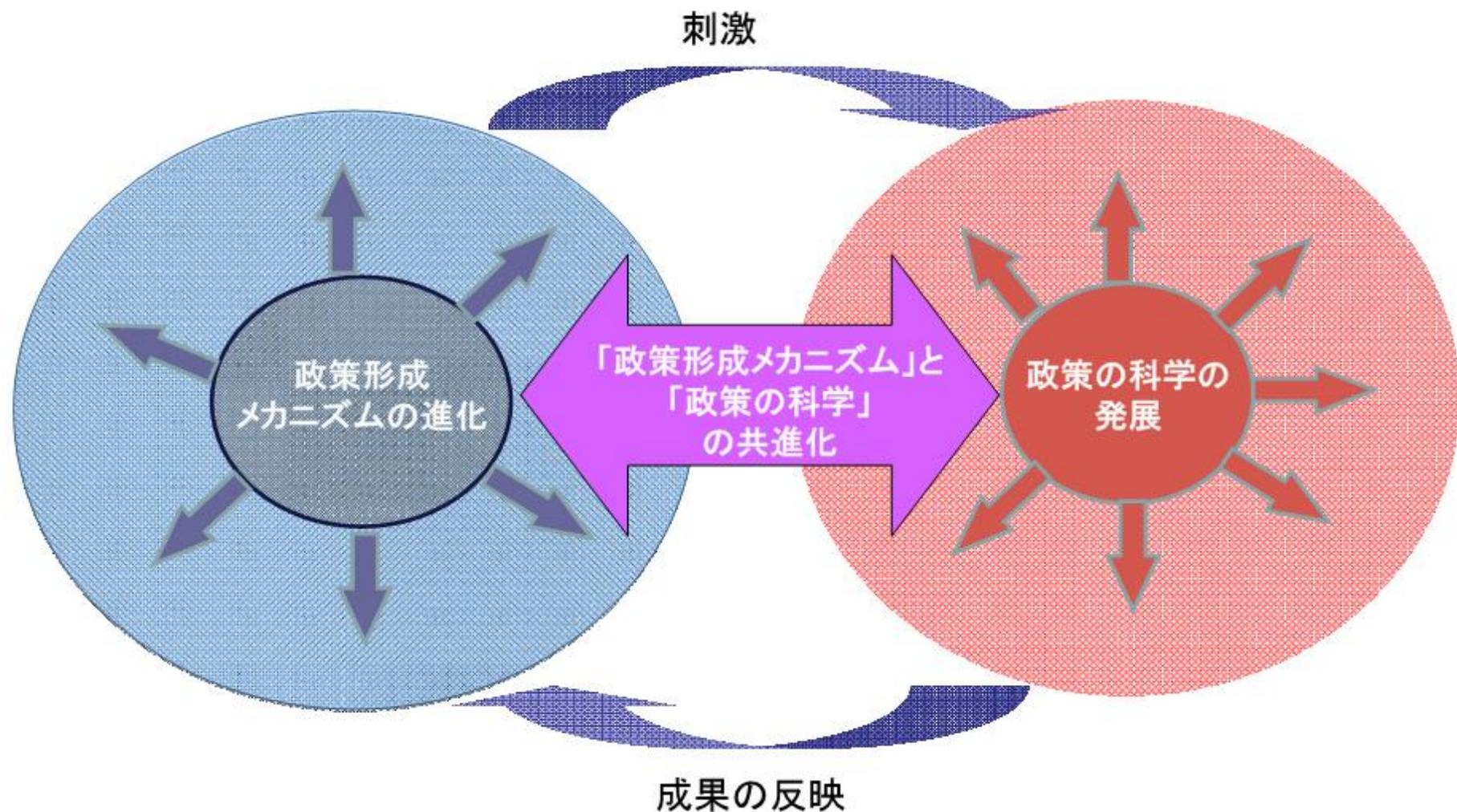
客観的根拠（エビデンス）に基づき、合理的なプロセスによる政策の形成が必要。

- 科学技術とイノベーションの関係やそのプロセスに対する理解を深め、科学技術イノベーション政策の経済・社会への影響を可視化。
その結果を、政策形成の実践の場で適用し、政策決定における透明性を確保することで、国民への説明責任を果たすことが必要。
- 客観的根拠とそれに基づく政策形成の成果を社会の共有資産として活用。それが、国民の政策形成への参加の基盤となる。

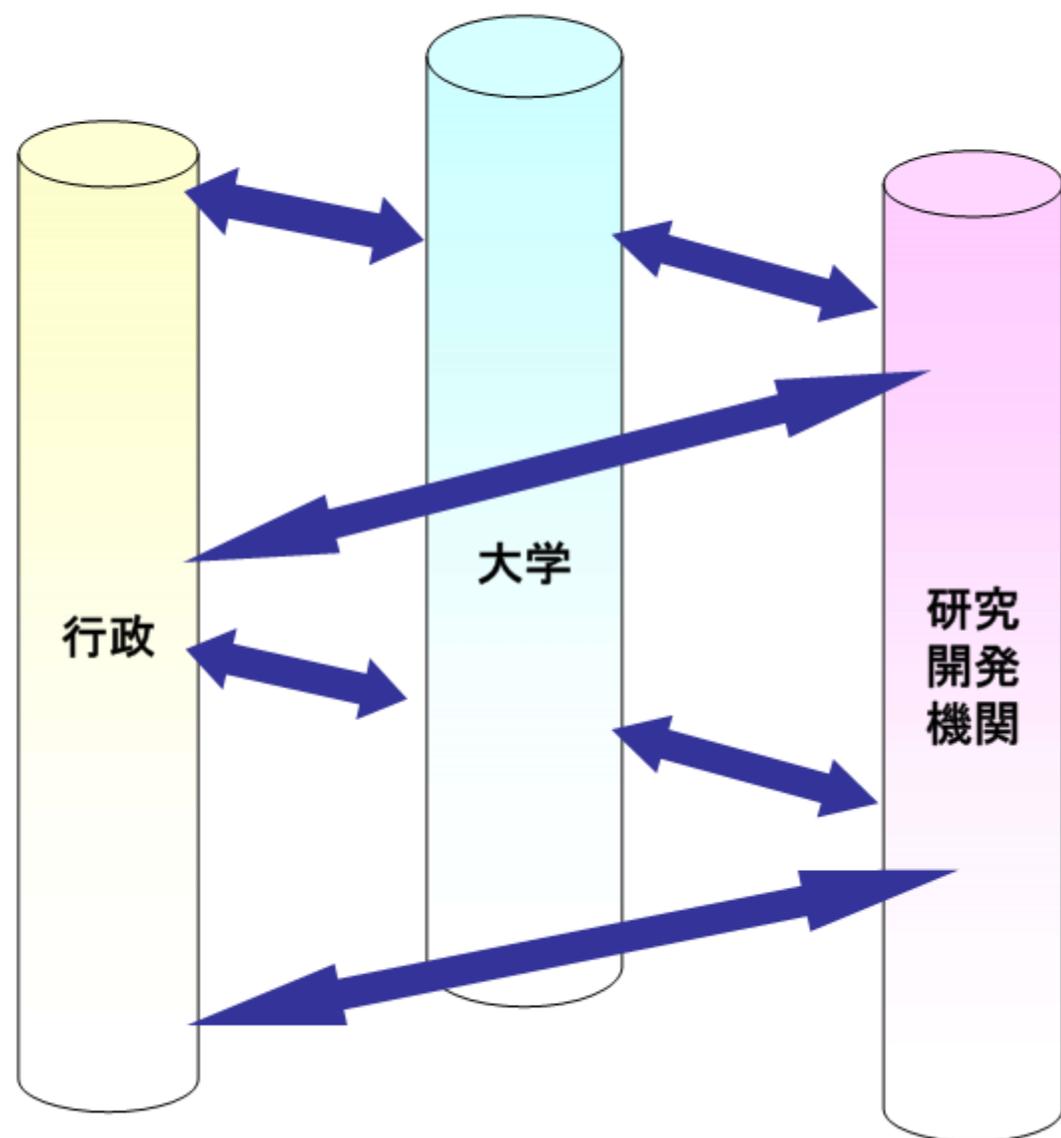


客観的根拠に基づく政策形成を目指して、
「科学技術イノベーション政策のための科学」の構築が必要。

(参考) 「科学技術イノベーション政策のための科学」と「政策形成プロセス」の進化を車の両輪として推進



(出典) (独)科学技術振興機構研究開発戦略センター、戦略提言: エビデンスに基づく政策形成のための「科学技術イノベーション政策の科学」の構築 (CRDS-FY2010-SP-13)



キャリアパス(例)

- ・大学院で科学技術政策について学び、学位取得後行政入り
- ・数年の行政経験後、研究開発機関に移り、プロジェクト研究遂行に従事
- ・大学に戻り、科学技術政策に関する高度な理論を研究
- ・行政に戻り、新規事業の企画立案に中核人材として活躍
- ・研究開発機関でプログラムディレクターとして研究をマネジメント
- ・大学に戻り、諸外国の最新の科学政策の理論と実践を研究
- ・行政で我が国の科学技術政策の方針策定の中核として活躍

(目的)

第5期科学技術基本計画に記載の客観的根拠に基づく政策を推進するため、科学技術とイノベーションの関係やそのプロセスに対する理解を深め、科学技術イノベーション政策(STI政策)の経済・社会への影響を可視化し、政策形成の実践の場で適用するとともに、成果を社会の共有資産として活用

(事業の概要)

基盤的研究・人材育成拠点の形成

大学院を中核とした国際的水準の拠点の構築を通じ、研究及び科学技術イノベーション政策をエビデンスに基づき科学的に進めるための人材育成を推進。

【領域開拓拠点 (4拠点5大学)】

 東京大学 拠点長：城山 英明	 一橋大学 拠点長：青島 矢一
 九州大学 拠点長：永田 晃也	 大阪大学・京都大学 拠点長：小林 傳司

GIST 【総合拠点 (1拠点)】 政策研究大学院大学
 拠点長：大山 達雄

SciREXセンター 政策研究大学院大学
 センター長：白石 隆
 ※各拠点の連携・協働の下、中核的拠点機能を整備

(主な取組状況・成果)

科学技術外交の戦略的推進

科学技術への外交の活用必要性を発信。外務省で「科学技術外交のあり方に関する有識者懇談会」が開催され、科学技術顧問の設置につながる。

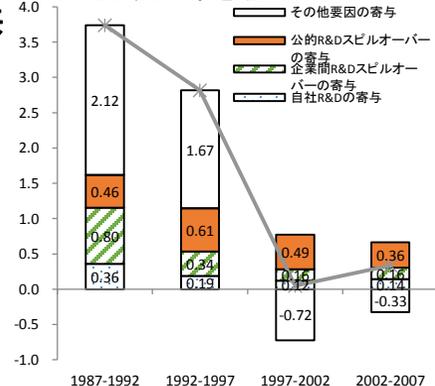


「科学技術外交のあり方に関する有識者懇談会」報告書を岸田外務大臣へ提出(2015年5月8日)

科学技術基本計画等政策形成の基礎となるエビデンスの提供

政府の資金助成と民間企業の研究開発・イノベーションに関する分析、STI政策を定量的に評価できる経済モデル手法の開発等を行い、基本計画、科学技術白書執筆等の基礎となるエビデンスを提供。

H27年版科学技術白書 第3節 「経済成長への科学技術の貢献」にて研究成果を活用



資料：科学技術・学術政策研究所 Discussion Paper No.93より

データ・情報基盤の構築

政策形成や調査・分析・研究に活用しうるデータ及び情報を体系的・継続的に蓄積



科学技術・学術政策研究所

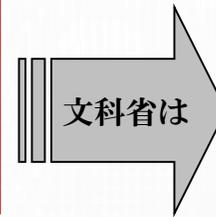
公募型研究開発プログラム

政策の形成に将来的に寄与しうる成果創出を目指し指標開発等を公募型研究開発プログラムにより推進

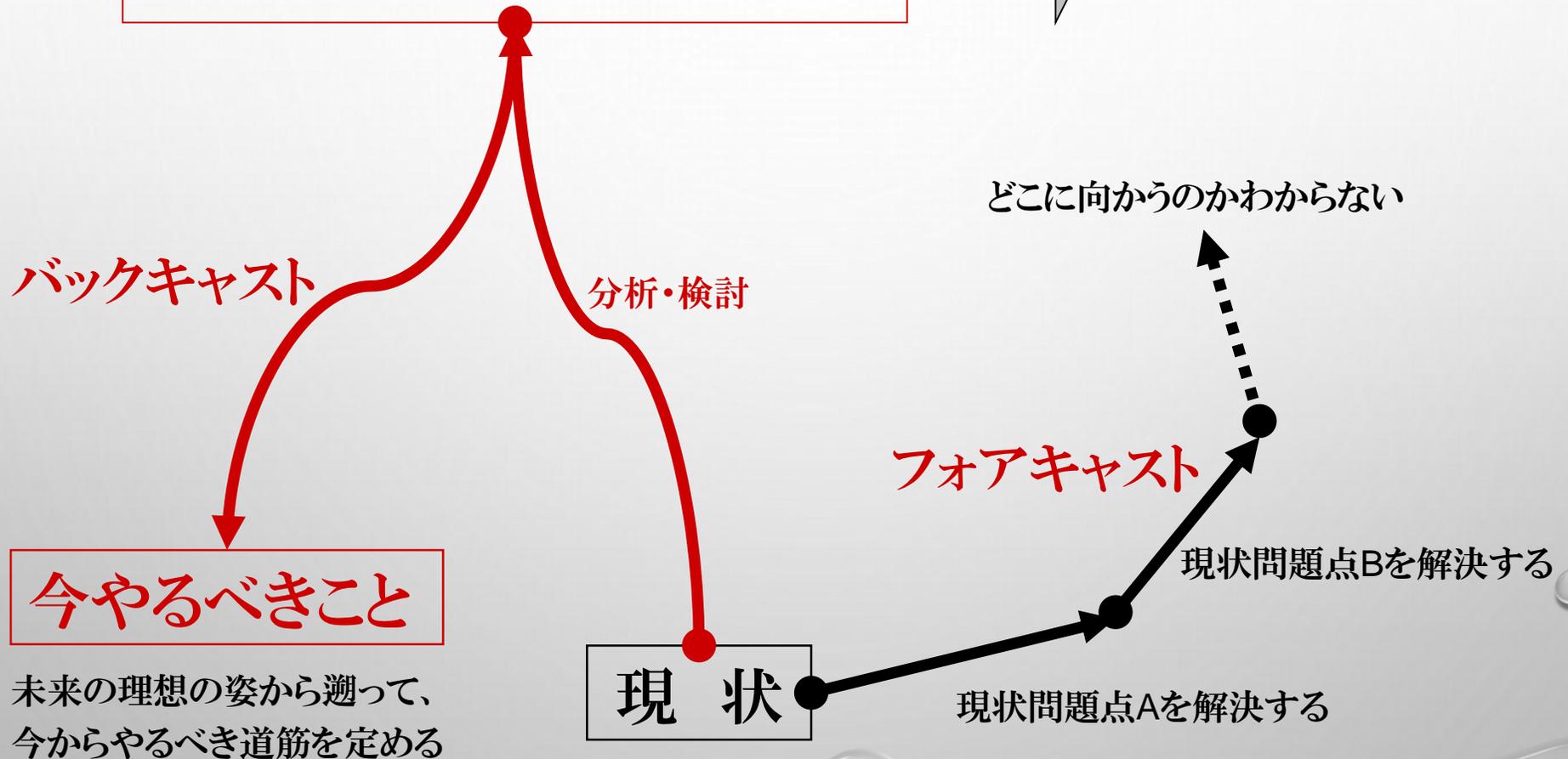


社会技術研究開発センター

文部科学省の**あるべき姿**
(ビジョン、戦略)



組織の中には、誇りを
組織の外からは、憧れを



今やるべきこと

未来の理想の姿から遡って、
今からやるべき道筋を定める

戦略室の目指すべきもの

(1) 局所最適化から全体最適化

- 現存の社会課題は複雑化、複合化しており、大局を見つつ、部分も見る必要
- 対話を重視し、外部機関や省内課室との情報の共有と建設的な議論を進める
- 研究開発投資の説明に必要な、長期的な視野を正当化する指標を作る

(2) 意思決定速度の向上

- 政策や事業の優先順位を付けられる仕組みを構築する
- 膨大な情報の中から、細部にとらわれず全体を見て、本質をイメージ、整理する

中堅？官僚から見た今後の政策立案

従来

一部の意見のみ反映

- 大御所による審議会
- 輝かしい実績を残している
スター選手
- 経済的、政治的利益をうける(声の大きい)関係者

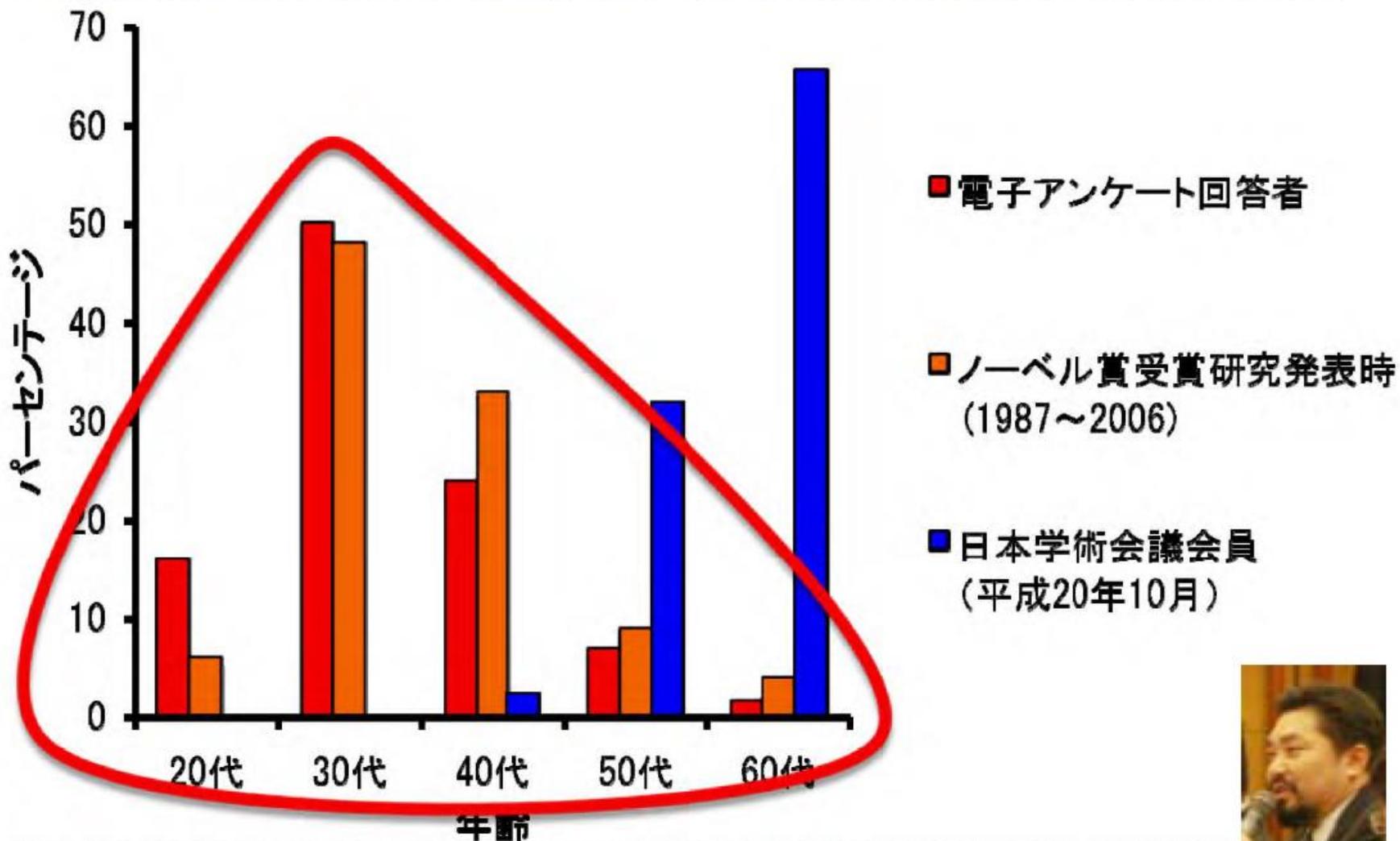
今後あるべき姿

大多数の中堅・若手研究者の 意見を反映

- ネットを利用した政策決定過程
の可視化と市民参加(熟議、
facebook、twitterなどの活用)
- 研究現場と政策の人材交流
- 分野横断的な研究者の組織

公務員は、**様々な意見や事実**を総合的に分析し、**客観的・合理的な政策オプション**を示す専門家に

電子アンケート回答者の年齢



* 内閣府ホームページ 宮川剛氏資料

ガチ議論

トップ

これまでの記事

お知らせ

ランキン

ピックアップ

ガチ議論2015 本番情報

いいね! 440

ツイート

Twitterまとめ

B! 9

東大総長参戦!

いいね! 9

ツイート

Twitterまとめ

B! 3

多方面からのご意見、ご感想

いいね! 4

ツイート

Twitterまとめ

B! 0

「政府による大学改革は、やらない方がましじゃない?」審査会の議事録を、発言者を匿名にして公開してくれませんか?」研究費と大学の運営費を増やすこと、税金負担をしている国民やその意を受けてリソース配分を行っている財政当局... 多くの研究者の感じていることです。運営費交付金が減っている... 研究者がどのくらい疲弊するかを考えたことが有るでしょうか?」

戻ってきたガチ議論!

お待たせしました!ガチ議論が2年ぶりに帰ってきます。研究者、文科省、大学、学会。本気で日本の科学を考え、変えるための議論の終結なるか?あなたの声は確実にトップに届く!

2015年12月3日(木) 18:45~20:45
第14会場(神戸国際会館 1階 メインホール)

LIVE 中継あり

scienceinjapan.org

「ガチ議論」進行スタッフ
田中 智之* (岡山大学・教授)
小清水 久嗣* (藤田保健衛生大学・助教)
神田 亮介* (理化学研究所・研究員)
加納 愛* (カクタス・コミュニケーションズ株式会社)

主催 BMB2015 (第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会)
司会 近藤 暹* (大阪大学・教授)・小山田 和仁* (政策研究大学院大学・専門職)
パネリスト 齊藤 卓也 (文部科学省 研究開発部 基礎研究推進課 基礎研究推進室・室長)
生田 知子 (文部科学省 大臣官房政策課 対論型政策形成室・室長)
荒木 弘之 (日本分子生物学会・会長 / 国立遺伝学研究所・教授)
水島 舜 (日本生化学会・会長 / 東京大学・教授)
八木 康史 (大阪大学・副学長 / 研究、リスク管理担当理事)
遠藤 斗志也* (BMB2015・生化学会大会会頭 / 京都産業大学・教授)
宮川 晃* (藤田保健衛生大学・教授)

協力 サイエントークス / カクタス・コミュニケーションズ株式会社
*ガチ議論, 委員

文科省に「対話型政策形成室」？

対話型政策形成室の設置について

平成26年10月3日
事務次官決定

1. 趣旨

文部科学省として取り組むべき政策について、多様なステークホルダーとの「対話」を通じて、既存の組織や政策にとらわれない、より中長期的視点からの全体最適な政策の共創を推進するべく、対話型政策形成室を設置する。

2. 対話型政策形成室の設置

- (1) 文部科学省大臣官房政策課に、対話型政策形成室を置く。
- (2) 対話型政策形成室は、中長期的視点からの全体最適な政策の共創の推進に当たる。
- (3) 対話型政策形成室に、室長を置き、関係のある他の職を占める者をもって充てられるものとする。
- (4) 対話型政策形成室に室長補佐、専門官、係長、専門職を置く。

対話型政策形成室の運用イメージ

肩肘張らずに議論できるスペースがほしい

省内に散らばる情報や知識を有効に活かしたい

人的ネットワークの広がりがほしい

事業設計を関係者と効率的に進めたい

関係職員

企業

NPO

関係職員

担当職員

省内外の多様なステークホルダーが集まり対話

対話型政策形成室

【事務局の機能】

- ① 効果的・効率的に対話による質の高いアウトプット創出ができる会議運営のコンサルティング
- ② 省内外の関係者と政策対話するワークショップの実施支援
- ③ 既存の関係者にとどまらない有識者・アドバイザー等の発掘・紹介

※ 省内庁舎16階に、専用の部屋を整備（省内部局に開放予定）

期待される効果

- 職員の政策的知識獲得の加速
- 戦略的な人的ネットワークの構築
- 施策・事業の質の向上

フューチャー・センター・アライアンス・ジャパン (FCAJ) との連携



(1) フューチャーセンター

1社単独では解決できない複雑な問題や、中長期にわたる社会課題などに対し、産学官民の垣根を越えた未来の関係者が集まり仮説を作る場です。未来志向の創造的な対話からテーマをつくりイノベーションの種を探し探求します。官民、地域の連携が前提のもと、医療や健康、都市問題について、興味のあるオーナーがリーダーシップをとって、テーマを推進します。

参加企業／組織 (アルファベット順・50音順)

参加大学／省庁 (50音順)

--	--	--	--	--	--



Future Center
A.BA とは



Tokushima University
Future Center

A.BA

「A.BA (アバ)」は、徳島大学が設置する国立大学初のフューチャーセンターです。未来志向で対話し、変化を起こして行く“場”、従来のアプローチでは対処できない社会課題を解決するイノベーションプラットフォームとして、所属や立場の異なる多様な関係者が集まり、中長期的な目的設定のもと、新たなアイデアや解決手段を見つけ出し、実現に向けた共創、実践の場として機能します。

スペーステクノロジーを取り入れたオープンスペースに多様な什器を配置し、柔軟なレイアウト、構成、憩い、集い、遊び、食、DIY、伝統、文化の要素を取り入れ、自由な発想を促す空間となっています。

地域創生へ向けた対話の場。既成概念にとらわれない発想、自由な発言...。それは多様性の尊重、そして、日常的な感覚を解き放つ異体験性、遊び、くつろぎの要素を取り入れることから始まる。

それは、参加共創型オープンイノベーション。戦略的な目的設定のもと、幸福社会、明るく豊かな未来をデザイン。都市の全体を研究室に見立て、社会実験していくところから始まります。「イノベティブな発想は人とのつながりの中に生まれる」と言われます。

地域の課題解決、産業創出、社会システム構築も同様です。市民協働、企業間連携、コワーキング、エコシステムなどが鍵となります。

Future Center A.BA の役割



News

お知らせ

HOME / お知らせ一覧 / 定例会 / 【FCAJ2017第1回MTG報告】社会的観点からの企業R&Dと大学基礎研究の連携再構築

2017.04.28 定例会

【FCAJ2017第1回MTG報告】社会的観点からの企業R&Dと大学基礎研究の連携再構築

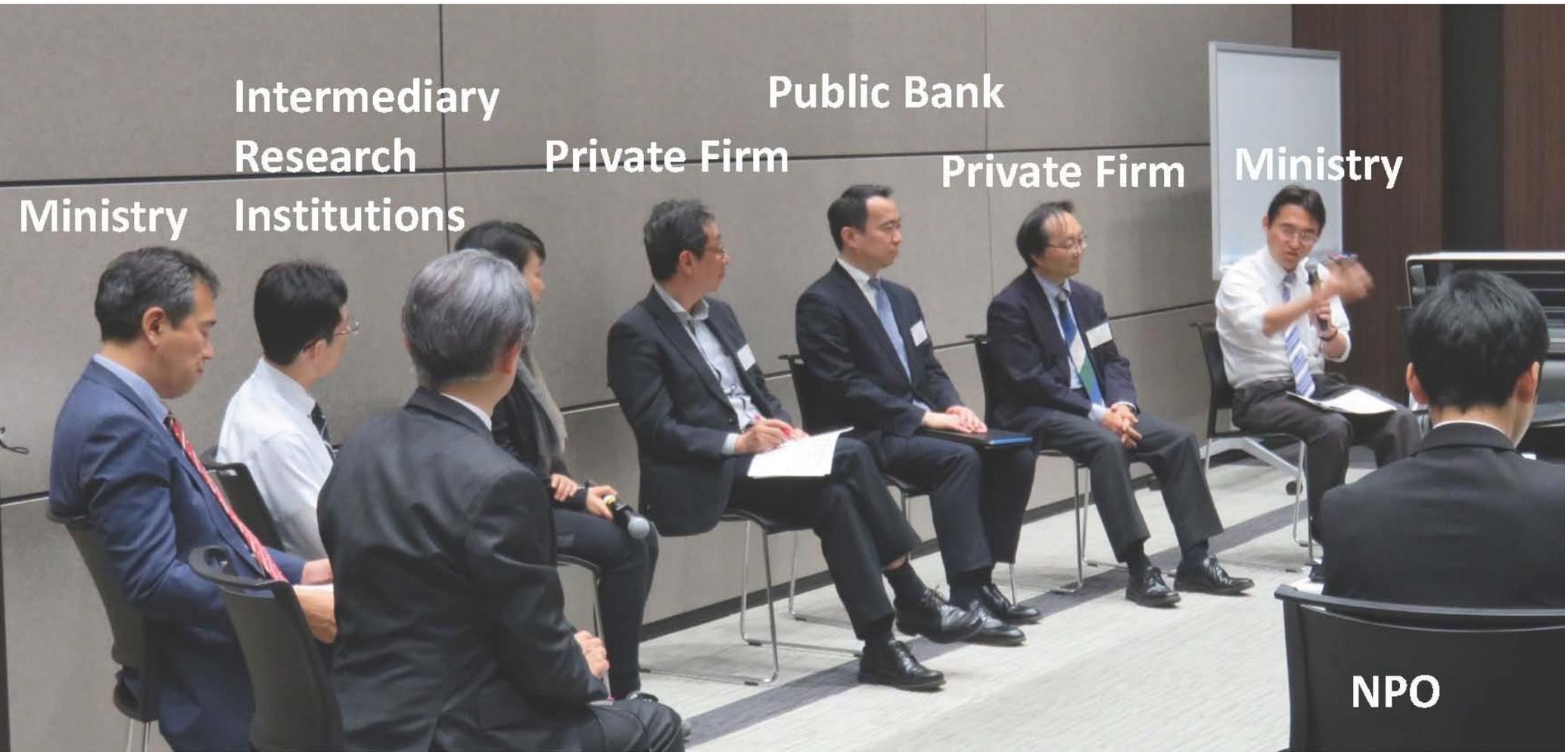
4月17日、2017年度のキックオフとなる第1回は、「社会的観点からの企業R&Dと大学基礎研究の連携再構築」と題し、文部科学省とFCAJメンバー企業がテーマオーナーとなって、オープンイノベーション時代の産学官連携を焦点にミーティングが行われました。FCAJの参加メンバーは、FC/IC/LLなどオープンな場を持つ組織団体に限定しており、今年度は新たに5社がメンバーとなりました。今後もFCAJのプラットフォーム機能はさらに強化充実していきます。

【FCAJ 2017第1回ミーティング概要】

- ・テーマ：社会的観点からの企業R&Dと大学基礎研究の連携再構築
- ・プログラムオーナー：文部科学省、日本政策投資銀行、
- ・協力：国立研究開発法人科学技術振興機構、株式会社日立製作所
- ・プログラム(抜粋)：

まずはじめに、今年度のキックオフということで、代表理事 紺野登より今年度の活動方針と本ミーティングの趣旨説明を行いました。





Intermediary

Public Bank

Research

Private Firm

Private Firm

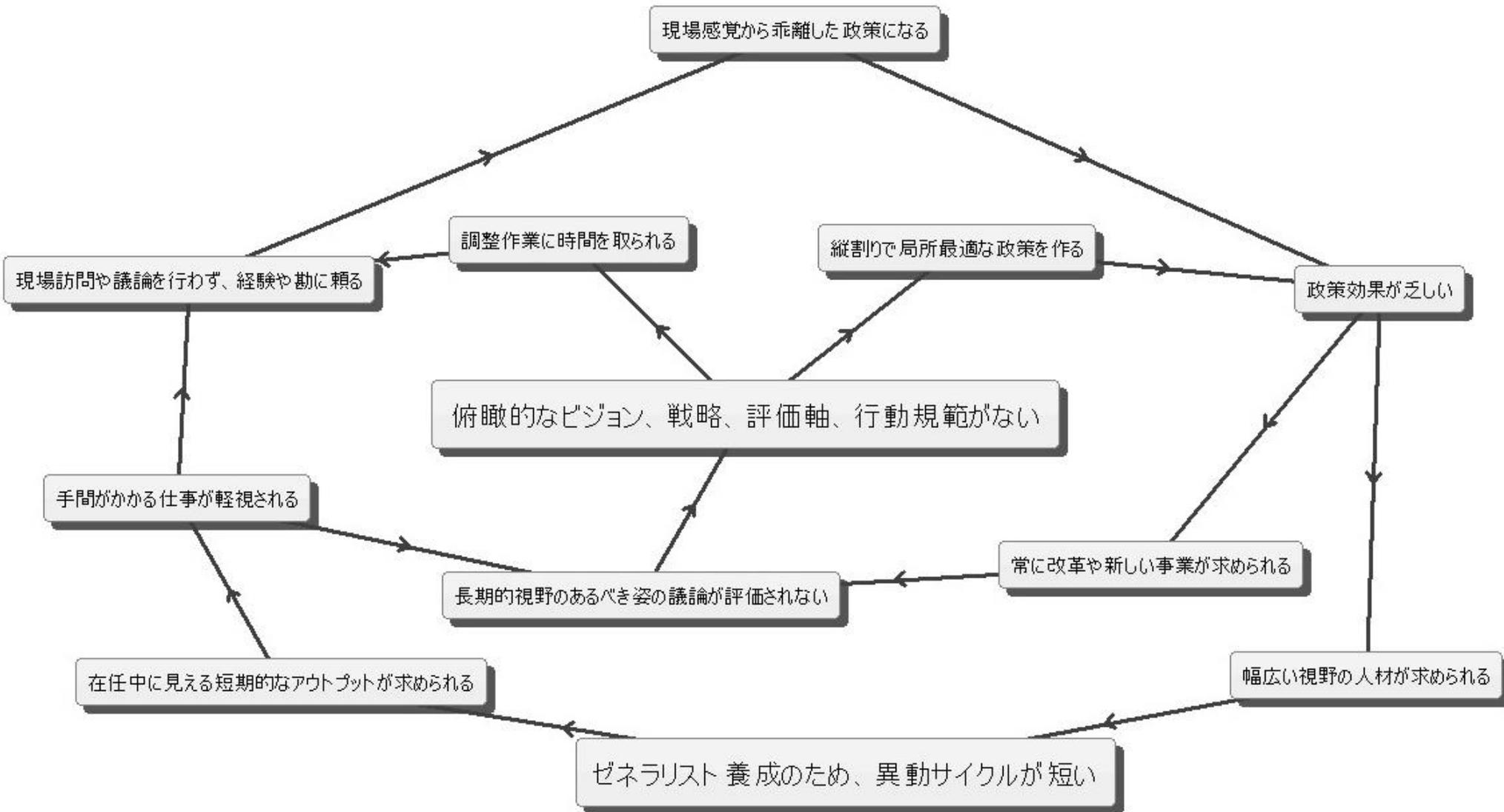
Ministry

Institutions

Ministry

NPO

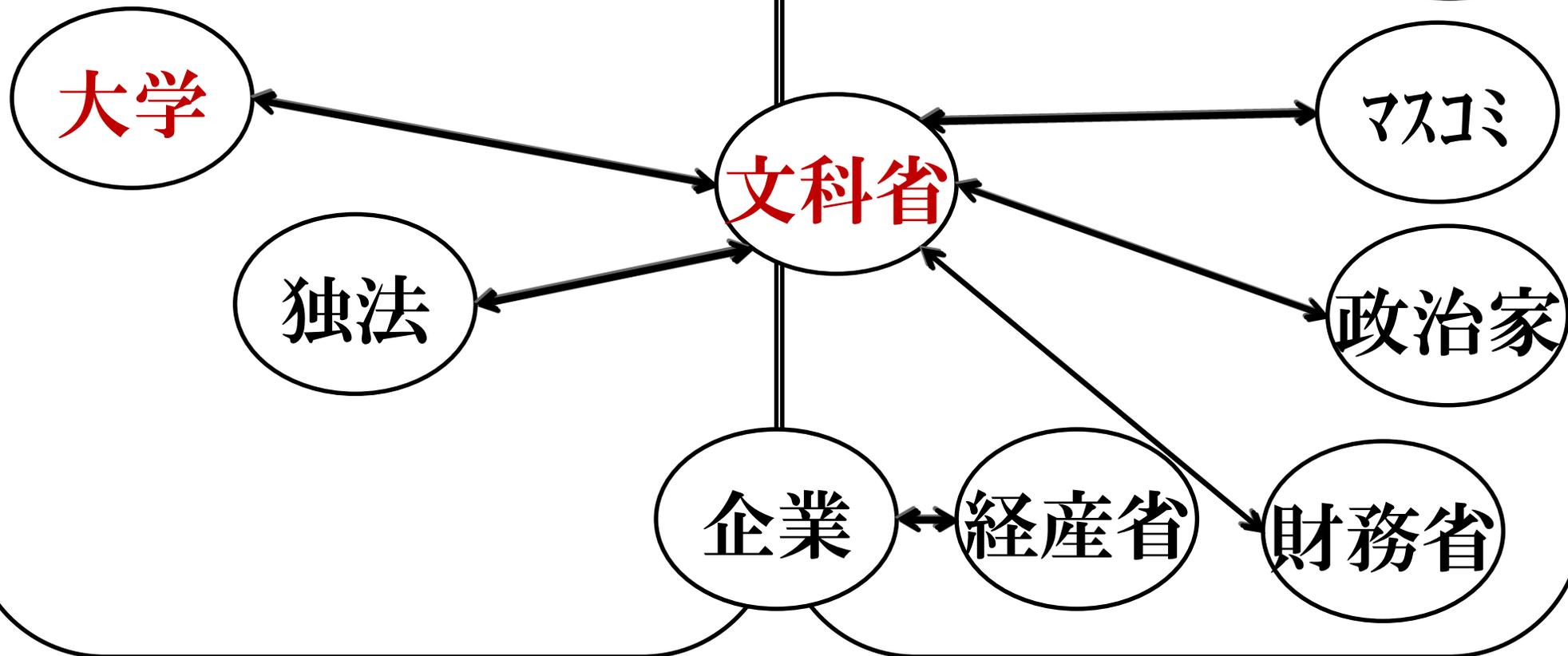
政策の悪循環(イメージ)



科学技術と社会 (大学研究者のイメージ?)

科学技術

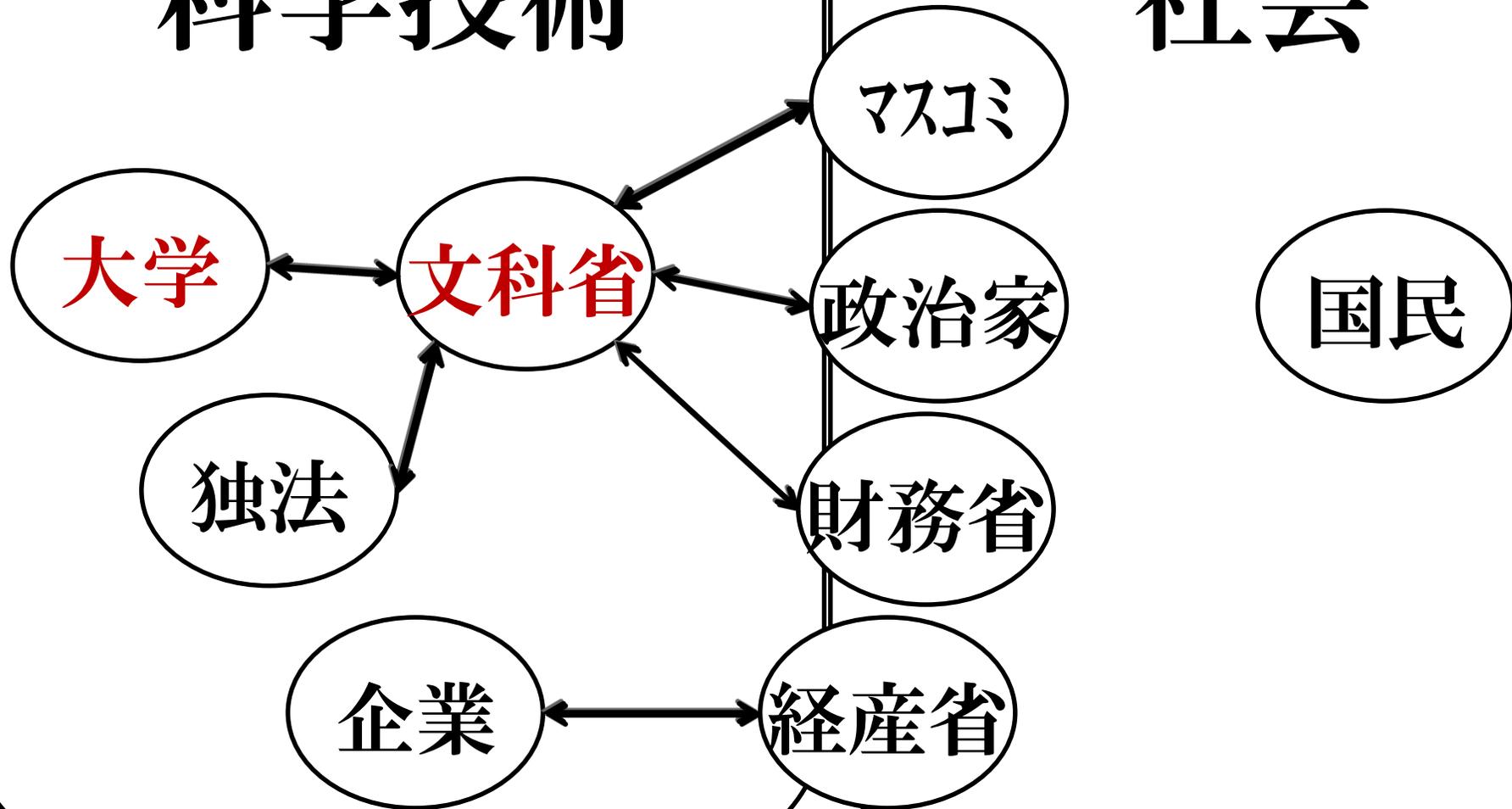
社会



科学技術と社会 (文科省、社会のイメージ?)

科学技術

社会



リサーチ・アドミニストレーターの業務内容（URAスキル標準 VER.1より）

①(1)研究戦略推進支援業務

- ① 政策情報等の調査分析、② 研究力の調査分析、③ 研究戦略策定

(2)プレアワード業務

- ① 研究プロジェクト企画立案支援、② 外部資金情報収集、③ 研究プロジェクト企画のための内部折衝活動、④ 研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整、⑤ 申請資料作成支援

(3)ポストアワード業務

- ① 研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整、② プロジェクトの進捗管理、③ プロジェクトの予算管理、④ プロジェクト評価対応関連、⑤ 報告書作成

(4)関連専門業務

- ① 教育プロジェクト支援、② 国際連携支援、③ 産学連携支援、④ 知財関連、⑤ 研究機関としての発信力強化推進、⑥ 研究広報関連、⑦ イベント開催関連、⑧ 安全管理関連、⑨ 倫理・コンプライアンス関連



徳島大学
TOKUSHIMA UNIVERSITY

ありがとうございました。